確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立百舌鳥支援学校
校長 山下 真由美

<p>令和6年度 重点目標 「笑顔にあえる学校～子ども・保護者・教職員～」</p> <p>1 子どもにとって楽しい学校…一人ひとりの障害特性とニーズに基づき、きめ細やかな支援の充実、教育課程におけるキャリア教育の推進、ICTを活用など、教材教具の工夫による授業力の向上、食育の推進、進路指導</p> <p>2 保護者にとって元気が出る安心できる学校…教育相談体制の確立、学校HP等学校情報の積極的な発信、「個別の教育支援計画・指導計画」を活用した保護者や関係機関との連携、学校安全の充実</p> <p>3 教職員にとって生き生きとした学校…支援学校教員としての専門性の向上をめざした組織的な校内研修の充実、職員間の「報告・連絡・相談」を基礎にした、チームとして児童生徒への支援、教職員の働き方改革(ワーク・ライフ・バランス)の推進</p> <p>4 保護者と地域から信頼される学校…支援学校のセンター的機能を発揮し、学校園への地域支援の推進、共生社会の実現に向けた交流および共同学習の充実、コンプライアンスの遵守と服務規律の徹底</p>
--

学校の現状
 本校は、知的障害児のための小中一貫の支援学校で、令和6年5月現在の在籍は、小学部112名、中学部94名の計216名である。本校では、「人として”生きる力”を育てる」を学校教育目標として掲げ、①元気なからだ(元気に生活する体力・運動する力)、②生活する力(基本的生活習慣、家庭生活・地域生活・社会生活に必要な基本的な力)、③まじわる力(人とかわかり、集団に参加する力やコミュニケーション力を高める力)、④あじわう力(文化を学び、豊かに生活を送る基礎的な力)、⑤はたらく力(労働の基礎となる力、職業観の基盤となる力)の5つの力をつけることを具体目標に掲げ、障害の多様化のなか、児童生徒一人ひとりの実態に応じて、個別のニーズに応じた学習活動に取り組んでいる。
 また、本校の児童生徒が、社会の一員として、豊かな生活を育むことができるようにするため、また、本校の児童生徒に関わる子どもの障害児理解を推進するため、近隣校や居住地校等との交流及び共同学習に、積極的に取り組んでいる。また、学校HPはじめ、あらゆる機会を用いて、本校の教育活動について発信をしている。一方、生徒数増加に伴い、令和8年度に宮園分校が開校予定である。しかし、特別教室を普通教室に転用しても教室不足が解消されず、校舎・設備の老朽化と狭隘化が喫緊の課題である。加えて、支援学校教育に関する専門性の継承と向上も本校の課題である。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認(11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	に応じた取	一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援に努める。	・児童生徒一人ひとりの障害の状態や特性を的確に把握するとともに教職員で共有し、個に応じた支援に取り組む。 ・ソーシャルスキルを高め、友だちや教員と良好な人間関係を築く。	・教員が子どもの実態を理解し、適切な支援の結果、子どもが楽しく学校に行っていることと保護者が捉えている。	学校教育アンケート (保護者・教職員)	3学期	○	○	○
	専門性の向上	支援学校の特色を生かし、専門的な指導の向上やより良い授業づくりに努める。	・障害の理解を深めるとともにICTを活用した教材を工夫するなど適切な指導と支援に取り組む。 ・各教科領域において学びの連続性を意識した系統性のある授業を実践する。 ・支援学校教員の専門性を高めるための研修に取り組む。	・障害理解や指導方法などを工夫しながら取り組んでいることと保護者が捉えたとともに、教員自身が研修に取り組んでいる。	学校教育アンケート (保護者・教職員)	3学期	○	○	○
健やかな心 豊かな体	自立と社会参加	一人ひとりの自立や社会参加を実現していくための指導や支援に努める。	・保護者と連携し、「個別の教育支援計画」を作成するとともに、「個別の指導計画」を活用し、支援の成果と課題について、保護者と共有する。 ・児童生徒の実態や課題に応じた合理的配慮について保護者と共有し、その実現に取り組む。	・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が学校と保護者の共通理解に役立っていると教員・保護者が捉えている。	学校教育アンケート (保護者・教職員)	3学期	◎	◎	◎
	学習及び共同	共生社会の実現に向けて、交流及び共同学習等を充実させる。	・近隣校との交流や居住地校交流、啓発授業等の取組により、交流及び共同学習を推進する。	・参加者や相手校が交流等を肯定的に捉えるとともに、次年度も継続して取り組むことを希望している。	学校教育アンケート (保護者・教職員) 各交流・行事のふりかえり	3学期	◎	○	○
開かれた学校づくり	機能センター的	支援学校の専門的な知識や技能を生かし、地域における特別支援教育の充実に努める。	・外部専門家と連携し、地域の小中学校等に対し適切な助言を行い、支援学校体験見学会を実施し、全学的な指導力の向上に寄与する。 ・地域及び関係機関に対し、体験・見学・講習等を実施し、啓発に努める。	・支援教育課が行う「支援学校センター的機能活用(外部専門家派遣)」のうち半数以上を地域校の支援に活用し、対象校から肯定的な反応を得る。	各アンケート及び外部専門家活用回数	3学期	○	◎	◎
	保護者との連携	保護者の悩みや相談を積極的に受け止め、関係機関と連携して、保護者支援・保護者連携の充実に努める。 宮園分校開校に向けて保護者と委員会との連携を図り、よりよい学校づくりを目指す。	・あらゆる機会を用いて保護者との意思疎通を図り保護者からの相談に対して適切に対応する。 ・ケース会議等を充実させ、行政・福祉・医療等関係機関との連携を強化する。 ・学校だよりや学校HPを活用して学校教育情報を積極的に発信する。 ・宮園分校開校に向けて保護者や職員の意見を参考に学校づくりをめざす。	・保護者と学校の意思疎通が図られ、保護者の相談を学校が受け止めたことと捉えている。 ・課題解決のために、関係機関との連携が進む。 ・原則、課業日はHPを更新し220アクセス/日を目指す。 ・宮園分校の開校に向けて保護者と連携しよりよい学校作りに参画	学校教育アンケート (保護者・教職員) 各関係機関からの反応・評価 学校HPアクセス数	3学期	◎	◎	◎

<p>校長より(年度末) 今年度は、公共交通機関を利用しての社会体験や学校間交流が活発化した1年であった。そのような中で引き続き保護者や関係機関と連携し、児童生徒の障害の実態に応じ自立と社会参加を目指して取り組むことができたと考えている。また、行事の精選と変更を行い、検証をした。新たに来年度も行事の変更を行う予定である。 次年度は、宮園分校の開校に向けて具体的に進んでいくであろう。本校の狭隘化の課題も依然残っている。また、児童生徒数も20名以上増える中で今まで以上にチームで取り組んでいきたい。</p>	<p>学校関係者評価者から(年度末) ・いつも通り教育活動を行えるようになったが、これを機会に行事の見直し、さらに今年度検証し変更を行ったことはいいことである。社会体験について系統立ててどの力をつけていくかを見直したこともよかった。 ・宮園分校については、当該校区の保護者が一人で考え込まないように保護者・学校が支え合っていくことが大切である。また、百舌鳥支援の狭隘化・老朽化についても引き続き訴えていく必要がある。</p>
---	--